

研究課題名	Rapid Response System 導入における主治医の意識変化：心理的影響とシステムの受容に関する検討
研究の意義・目的	RRS（Rapid Response System）は、入院患者さんの状態が急に悪化した際に、看護師などが専門チームへ直接応援を要請できる院内の仕組みで、院内の急変による死亡を減らすことが報告されています。一方、日本では担当医が自身の患者さんを管理する「主治医制」のもと、看護師が担当医を介さずチームを呼ぶことに医師が抵抗を感じる場合があります。本研究は、当院で RRS を導入してから 1 年後と 3 年後の医師の意識（認知・経験・受け止め）を比較し、受容に関係する要因を明らかにすることで、より良い RRS の運用と患者安全の向上に役立てることを目的とします。本研究で得た情報を他の機関へ提供することはありません。本研究は機関の運営とは独立した研究活動であり、不参加を表明されても業績評価・昇進・異動等へ影響することはありません。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～ 2028 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 （対象者）	2023 年（RRS 導入 1 年後）または 2025 年（導入 3 年後）に、大阪公立大学医学部附属病院で実施した RRS に関する無記名アンケートに回答された、当院に勤務する医師の方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	すでに無記名で実施されたアンケートの回答（下記項目）を本研究に使用させてください。 アンケート情報：所属診療科、卒後年数の区分、RRS の認知度、RRT 相談フローの認知、RRT コール（介入）の経験、看護師の直接コールに対する受け止め（5 段階）、医療安全上の安心感（5 段階）、今後の利用意向、自由記述。 ※お名前・生年月日等の個人を特定する情報、患者さんの診療情報、血液・組織等の試料は一切用いません。
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科 救急医学、集中治療医学教室のみで行います。 研究責任者：出口 亮（救急医学）
個人情報の取り扱い	本研究で用いるアンケートは無記名で実施されており、回答から個人を特定することはできません。研究で扱うデータは、すぐには個人を特定できない形式で管理されます。研究結果が学会や医学雑誌などで公表される場合にも、お名前など個人を特定する情報が含まれない形で公表されます。
本研究の 利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	ご自身のアンケート回答が本研究に用いられることをご了承いただけない場合は、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。なお、回答は無記名であり個人を特定できないため、すでに統合・匿名化されたデータからお一人分のみを削除することは技術的に困難な場合があることをご了承

	ください。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 救急医学 担当者氏名：出口 亮 電話番号：06-6645-3987